

平成 31 年 4 月 1日

岡山市長 大森 雅夫 様

コウナンダイテクチョウジュウヒガイタイサクキョウギカイ

フリガナ 団体名 光南台地区鳥獣被害対策協議会

所在地
連絡先

フリガナ カイチョウ ニシタニ マンジ
代表者役職・氏名 会長 西谷 萬二

実施分野	(該当の分野を○で囲んでください) ア 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名	光南台地区耕作放棄地の復元等による地域活性化プロジェクト
事業実施区域 (小学校区)	光南台中学校区



※実施事業の概要（200字程度）をご記入ください。

※事業実績を示す写真（事業内容ごとに2枚程度）、作成した報告書やチラシ等を添付してください。
アンケート等を行った場合は、集計結果を添付してください。また、新聞等で取り上げられた場合は、その写しを添付してください。

<実施事業の概要>

①耕作放棄地の草刈り

- ・宮浦長谷水系 1,000㎡（330坪）を農地へ復元後、ウメ5本、ピワ3本、レモン3本、クリ3本を植樹。
- ・宮浦東畑付近500㎡（150坪）を農地へ復元後、オリーブ5本、柿5本を植樹。
- ・宮浦フソウ付近700㎡（200坪）を農地へ復元後、オリーブ4本、レモン4本を植樹

②地元中学生、住民による植樹

耕作放棄地を果樹園へ再生し、中学生、地域住民が協働して植樹した。
1/12（土）9～12実施（宮浦）

③ファーム事業の拡張

利便性の高い耕作放棄地を農園へ復元し、ファーム事業の拡張を図った。
（400坪）収益は、鳥獣被害対策に関わる経費の一部とした。
今後も継続して拡張していく予定である。

④イノシシの捕獲・防護

イノシシの捕獲檻での駆除も積極的に進め、今年度も約200頭駆除した。
同時に、ワイヤーメッシュ・電柵による防護にも努めた。その結果、イノシシによる田畑、果樹園の被害は激減した。

⑤親子野菜作り教室の実施

「親子で野菜づくり教室」講座全5回実施した（5月～10月）
8月は、特別警報発令のため休館となり中止。
受講者は100名を超える盛況であった。
講師は貝原三雄さん（園芸アドバイザー）
参加者の半数は、学区外の方でファーム農園の申し込みもあった。

①事業実施内容

<農村環境の整備>

(1) 耕作放棄地の復元・植樹栽培

平成24年頃から光南台地区においてイノシシによる被害(田作、畑作)が急激に増え、地域の高齢化と相まって、当地区の耕作放棄地(約40ha)が拡大した。最近では民家近くにまで出没するようになり人災の恐れが出ている状態である。そこで地域の町内会長等による「光南台地区鳥獣被害対策協議会」を立ち上げ、猟友会南分会、JA、公民館等と連携してイノシシ対策を行っている。当プロジェクトはその一環として、山際の耕作放棄地を復元し、果樹(梅、オリーブ等)を植えることにより、イノシシの出没を軽減させる事業を展開しているが、耕作放棄地は広大なため年々継続した取組が必要である。

(2) イノシシの人的被害対策

最近朝夕民家近くにまで、イノシシが集団で出没するようになっており、光南台地区住民が安心して暮らせる町づくりが喫緊の課題となっている。

(3) 山際の耕作放棄地対策

山際の耕作放棄地で農地復元が困難な所の再利用、例えば里山づくりは、イノシシの出没を抑えるのに効果的である。地域住民が集結して魅力ある里山づくりが求められている。

- ア 地域課題解決⇒解決を目指した課題の達成状況
- ・平成30年度の事業計画に基づいて活動し、目指した課題はほぼ達成出来た。
 - ・平成30年1月、地域住民が乗用草刈り機を使用して広範囲に草刈りをしたお蔭で効率的な整地が出来た。今後も乗用草刈り機による草刈りを依頼する予定である。
 - ・ファーム事業については東農場、北農場に加えて西農場も確保でき、ファーム事業の拡大が図れた。
 - ・耕作放棄地対策として、パパイヤ栽培も3年目を経過したが、多くの住民がパパイヤ栽培を行うようになり、イノシシ対策に成果が出ている。
 - ・イノシシによる畑作被害防御として、使用済みの海苔網を斜めに張るなどの研究に着手しているが被害減少するなど効果が出ている。
 - ・イノシシに遭遇した場合の対処の仕方等の研究（ネット等による）において、傘を広げてくるくる回すことでイノシシが退散することが分かったので住民に情報提供し、身の安全対策を推奨することができた。
- イ 地域課題掘り起し⇒掘り起こしにより明らかになった課題等
- ・当事業は平成27年に開始して4年目を迎えたが、地域住民からの自主的な課題解決に向けた提案・活動内容が中々出てこない、早急なリーダー育成が急務である。
 - ・近年の異常な高温と夏場の雨不足に植樹後の管理が困難を極めた。その対策として、果樹の苗木を6か月程度育苗し、根張りを充分にして、その後植樹するなどの工夫が必要である。
 - ・植樹した梅・オリーブは170本を超えるが、植樹後の手入れ、草刈りなどの労力が年々増えてその対応を考える必要がある。
 - ・地域の資源（海、山林、竹林、特産物、観光、歴史など）を活かした事業が展開されていない。住民がアイデアを出し合って地域おこしに挑戦する危機感と意気込みが足りない。
- ウ 地域計画づくり⇒作成された計画等
- ・今後においてもこの事業は継続して推進する予定であるが、事業の継続に応じて柔軟に対応していく。
 - ・当事業は長期構想に基づいて事業展開しており、継続的な管理・運営においては、人的・財的に無理のない運営作りが必要となる。協議会の中で組織作り、財源づくりを構築していく予定である。
 - ・当事業で生産される、ウメ、オリーブを、如何にして高品質なものにして行くかは重点課題である。今後の課題としたい。
 - ・H29年度に「甲浦地区地域おこしプロジェクト」を立ち上げた。また当地区に地域おこし協力隊を導入予定である。当事業での梅・オリーブは今後収穫が見込まれるので、プロジェクト、地域おこし協力隊と協働して事業を推進していく予定である。
 - ・更に地域おこし協力隊員には、地域資源（軟弱野菜など）の事業化、定住を期待している。
 - ・H29/12月に「甲浦地区地域おこしプロジェクト」の第1回委員会を開催し、梅・オリーブによる事業化、地域の資源を活かした事業を話し合った。今後も地域の中で協力し合って、地域おこしに関わる事業の掘り起こしを行っていく予定である。
- エ 地域課題解決型の地域組織づくり⇒目指した地域組織づくりの達成状況
- ・協議会に女性メンバーを加える事で、計画、広報面の強化を図った。
 - ・H29年12月に甲浦地区に地域おこしプロジェクトを立ち上げた。
 - ・公民館の鳥獣対策専門部会主催の「野菜づくり教室」「パパイヤ栽培・料理教室」の参加者同士で、耕作放棄地対策等情報交換を行っている。

- ・光南台地区の取り組みを積極的に地域内外に広報し情報の共有化を図る。
 - 1) 他地区の農家組合と連携
 - 2) 光南台学区の各種団体との連携活動
 - 甲浦愛育委員会／小串ケア会議／地域の町内会会合
 - 3) 山陽新聞への記事提供
 - 4) 光南台中学校との協働（梅・オリーブの植樹）
 - 5) オニビジョンへの情報提供

オ その他⇒定めた目標の達成状況

- ・当年度で計画していた事業（耕作放棄地の利用）はほぼ達成出来た。
- ・前年以前植樹した梅・オリーブは順調に大きくなっている。
- ・利便性の高い耕作放棄地整地後のファーム事業は西農場も拡張でき、順調に活動費の確保に繋がっている。特筆すべきは、市民のひろばおかやま12月号「南区かわら版」で、体験農園利用の募集をした。はるかに予想を超えた申込みがあり、来年度の活動費は確保出来た。嬉しい誤算である。
- ・畑地、果樹園等の防護の研究は使用済みの海苔網の使用等で成果を出している。
- ・パパイヤの耕作放棄地を利用した栽培も順調に増えている。
- ・地域おこしに関する講座は公民館で複数回開催され、今後の地域おこしの取組の参考になっている。
- ・今後の課題（夏場の高温と豪雨への対策）が分かり対応策も出来た。

※実施にあたって工夫したこと、また住民への活動の周知広報の取組とその評価を記載してください。

＜実施にあたって工夫したこと＞

- ①当事業で植樹した梅・オリーブの収穫は5年位かかるので、地域住民には生育状況を説明して、気長に事業に取り組んでくれるよう協力を求めた。
- ②地域には眠っている資源が沢山あり、その活用についての事例講演を公民館で開き、住民が自主的に取り組めるようヒントを与えるよう工夫した。
- ③耕作放棄地整地後植樹して数か月後収穫ができ健康によいパパイヤ栽培の促進を図った。平成30年度は約60本の栽培があった。
- ④地元中学生に耕作放棄地整地後の畑に梅・オリーブの植樹体験会を行った。子ども達は当事業の参加に喜び、生育が楽しみと張り切って植樹した。
- ⑤当事業の財源であるファーム事業の拡大に取り組んだ。地主に当事業の目的等説明して協力をお願いした。（平成29年度は西農園の確保が出来た。）
- ⑥当事業において草刈りは大きな労力を要し、事業の推進に苦慮していたが、乗用草刈り機を使用しての草刈りの申し出があり大変作業がはかどった。当事業を理解しての申し出は事業の推進に拍車がかかり地域の協力体制に有効であった。
- ⑦当事業でのイノシシ対策として田畑の防護の研究を住民同士で取り組んでいるが、平成30年は使用済みの海苔網の利用で大きな成果が出た。このことはOniビジョンでも取り上げられる等、高い評価を得た。

＜広報の方法＞

- ①山陽新聞社、オニビジョンなどへ情報提供
- ②公民館だよりへ毎月イノシシ対策等の情報掲載
- ③市政だより「南区かわら版」への体験農園募集の掲載
- ④地域の団体での広報活動強化
 - ・甲浦愛育委員会、小串ケア会議での事業取組などの説明
 - ・町内会お知らせでの広報
- ⑤イノシシに関する冊子を年々更新して、地域住民に配布している。

※次年度に引き継ぐ課題、今年度の実績を踏まえた次年度計画の概要をご記入ください。また次年度に引き継がず活動を完結する場合はその理由（課題が解決したからなど）をご記入ください。

<次年度に引き継ぐ課題>

- ①この事業は長期計画による継続事業で直ぐ成果は出にくい。イノシシ被害の軽減、5年後以降の収穫と徐々に成果が出るので、それまで気長に取り組むことが大事である。それまで地域住民の理解と協力を得ることが重要課題である。
- ②鳥獣被害対策は、耕作放棄地対策その物である。今後も引き続き、農村環境の維持を実施したい。
- ③今後も過疎・高齢化が進み、耕作放棄地の増が見込まれる。そのことから当事業の取組は重要である。更にこの事業は梅・オリーブの収穫が見込まれ、当地区の活性化に繋がる。地域住民をあげて取り組んでいくことが求められる。
- ④当地区の温暖な気候は稲作、畑作、果樹栽培に適しており、当地区での特産物の創出は今後の大きな課題である。地域の資源を如何に活かしていくかみんなで生き残りをかけて模索していくことは大きな課題である。
- ⑤近年、過疎化の影響で空き家が増えている。空き家を利用した土着金センターの設置、そしてそのたい肥を利用した野菜作りはこの地域の活性化に繋がるであろう。

<今年度の実績を踏まえた次年度計画の概要>

- ①平成27年度から開始した当事業を次年度以降も継続して推進していく予定である。
- ②当事業の継続は今まで植樹した果樹（梅・オリーブ等）の手入れ、草刈りなど管理において事業費が嵩む。その対応としてファーム事業の拡大、地域の資源を活かした事業の創生など課題が満載である。
その解決に向けて岡山市区づくり推進事業の実施、甲浦地区地域おこしプロジェクトの立ち上げ、地域おこし協力隊の導入、岡山大学から大学院生の受け入れなど、協議会は前向きに安全な町づくり、活力ある町づくりに取り組んでいる。
- ③耕作放棄地を利用したパパイアの栽培は美味しいパパイア料理の開発、パパイア茶の実用化、パパイア焼酎の開発など可能性が大である。地域の主婦が団結してその事業に取り組む予定である。
- ④当地区は海に近く、温暖な気候と潮風の影響で、この地域ならではの美味しい様々な果樹栽培に取り組む予定である。
- ⑤来年度は、体験農園の利用申し込みが増えた事で、資金面での余裕が出来た。事業実施においても、区づくり事業の助成金なしでの、事業継続が可能になった。
今後は、市民のひろばおかやま「南区かわら版」の活用を考えている。

※事業を実施することを通じて持続可能な地域づくりを進めることができたか、持続可能な地域づくりを担う人づくりにつながったか、地域の課題解決力は高まっているか等、本事業についての自己評価をご記入ください。

＜当事業に対する自己評価＞

- ①地域の町内会が自主的に協議会を立ち上げ、平成27年度から事業を継続的に推進しており、イノシシによる田畑などの被害の軽減、梅・オリーブの収穫の期待など機運が高まっている。
- ②当事業の推進はファーム事業を産み、耕作放棄地を減らした。そして里山に下りて来るイノシシの阻止に多大な効果を示した。
- ③地元中学生が当事業に参加し、住民と一緒に耕作放棄地整地後の畑に果樹を植樹したことは、これからの当事業の継続に大きな意味をもたらすことであろう。子ども達が大きくなって植樹した梅・オリーブが沢山実をつけたのを見ると感動し、その有益性を理解することと思われる。
- ④これまで、地域の小学校に出向いて、イノシシに関する生態、注意すること等の出前授業の実施、イノシシに関する冊子の作成・配布、イノシシ情報を公民館たよりに掲載などは評価できる。
- ⑤地域住民がイノシシ被害の軽減に向けた取り組みとして、イノシシ箱罨に必要な米ぬかの自主的な提供、防護柵の研究を行い、多大な成果を出していることは地域をあげた取り組みとして評価できる。

⑥事業実施者の評価・感想、審査会での助言及び意見を踏まえた改善

○区づくり推進事業審査会からの助言・意見の内容

- ① 長期に渡る取組であるが、少しずつ成果が上がっており、継続した取組に期待している。一方で、予算が少ないようにも感じる。

A・野菜づくり講座を実施する事（5月～10月迄毎年6回）で、ファーム事業を拡大している。
・H31年度も実施を予定している。

- ② 事業内容が非常に具体的であり、思いが伝わってくる。

A・地域住民・光南台中学校生徒及び先生との協働で耕作放棄地整地後の畑に梅・オリーブの植樹を行った。今後も継続事業とする。

右記のⅠ～Ⅴの該当部分に○を付けてください。なお、Ⅳを選ばれたときは、その理由を下記（ ）内へ記入して下さい。

（理由： ）

助言等の内容について、改善ができましたか。

- Ⅰ できた
- Ⅱ おおむねできた
- Ⅲ 一部できなかった
- Ⅳ まったくできなかった
- Ⅴ 改善意見がなかった

⑧事業実施経過

※時系列に沿ってご記入ください。事業実施のための準備や打ち合わせ会合日などもご記入ください。補助事業実施決定前の準備活動についてもございましたらご記入ください。

年 月 日	内 容
H30. 3. 25	宮浦地区耕作放棄地草刈りスケジュール会議 7
4月10/17/23	籠山付近草刈り 4
4月23/24	籠山付近 草刈り 3,000㎡ テクノグリーン 6
5月 1/8/14/ 23/24	トント石付近草刈り 2,000㎡ 5 後口
5月12	野菜づくり教室(1回) 22
5月20	長谷池～青谷池水系水路の清掃草刈り 11
5月22/23/24 /25	トント石付近 草刈作業 2,000㎡ 4
5月26日	鳥獣被害対策協議会総会 第5回 39
6月2日	野菜づくり教室(2回) 20
6月3日	定例会(今後の事業計画について) 13 宮浦公会堂
6月3日	金上池水系水路の清掃 6
6月/5/12/17/ 19/26	ラビット草刈り キドコ/立町付近 5
7月 1	オリーブ植樹 東畑付近 2
7月3	ウメ・柿 植樹 東畑付近 2

7月10/15/17	農道の整備 10	コンボ/チェーンソー
7月19	防護柵の搬入 2	
31	トント石付近草刈 1	
8月 4	野菜づくり教室(3回) 16	
8月14/20	籠山付近 果樹園の草刈り 2	
8月23/24/25	籠山付近 草刈り 3,000㎡	テクノグリーン 9
9月1	野菜作り教室(4回) 17	
9月/4/11	籠山付近 果樹園の草刈り 4	
/18/26		
10月6	野菜作り教室(5回) 16	
10月16	ウメ・柿 植樹 濱上付近 2	
10/22	トント石付近果樹園の草刈 1	
11月5	防護柵の運搬及び設置 2	
8	オリーブの植樹 2	
11月13/20	植樹準備 2	
28/29/30	キドコ/籠山付近 草刈り 3,000㎡	テクノグリーン 9
12月9	立町/キドコ付近耕作放棄地草刈 8	
12月4/11/18/	トント石付近 植樹準備(1/12 土曜日) 4	
25		
29	定例会(今後の事業計画について) 8	
	宮浦公会堂	
H31/1/12	光南台中学校との植樹イベント(ウメ・オリーブ) 19	

1月	果樹園へ寒肥 4	果樹園の剪定 3
1月2	金城池水系	水路の清掃 6
2月	果樹園へ寒肥 4	
5/12/19/26	水路の補修/防護柵の設置	4
3月5/12/19/26	水路の補修/防護柵の設置	4
	区づくり事業完了	延べ 287人
年代別参加者		
10~59 歳迄	男性 40人	女性 8人
60~69 歳迄	男性 134人	女性 33人
70~79 歳迄	男性 64人	女性 8人
	合計 238人	49人 (合計287人)

⑩ 収支決算書

◆ 収入

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
岡山市補助金	100,000	100,000	
負担金	100,000	0	
参加費	0	0	
寄付、他収入	0	141,614	体験農園利用料
計	200,000	241,614	

単位:円

◆ 支出

項 目	予 算 額	決 算 額		内容(必ず記載してください)
		総事業費	補助対象費	
① 消耗品費		17,294	17,294	鉢、結束紐、防虫ネット他
③ 食糧費	0	5,060		植樹活動サンドイッチ
④ 印刷製本費	0	0		
⑤ 燃料費	0	3390	3390	ガソリン
⑥ 光熱水費	0	0		
⑦ 通信運搬費	9,000	6,000	6,000	ワイヤーメッシュ運搬
⑧ 広告料	0			
⑨ 手数料	0			
⑩ 使用料・賃借料	33,000	16,000	16,000	トラクタ等使用料
⑪ 原材料費	95,000	113,870	113,870	苗木、鶏糞、真砂土他
⑫ 委託料	63,000	80,000	80,000	草刈、剪定等作業委託
⑬ 事請負費	0	0		
⑭ 報償費	0	0		
⑮ 保険料	0	0		
⑯ 旅費	0	0		
計	200,000	241,614	236,554	

単位:円